

22 年9月定例会 本会議一般質問と当局答弁

2022 年9月 13 日(火) 15:15

◎出口成信議員の一般質問(30 分)

1. 旦過火災問題について
2. 八幡市民会館のホールとしての再開



出口成信議員への答弁と再質問 ※音声をもとに党市会議員団で要約したものです

- 北橋市長[旦過火災について]
- 産業経済局長
- 市民文化スポーツ局[八幡市民会館のホールとしての再開について]
- 出口成信議員
- 市民文化スポーツ局長
- 出口成信議員
- 市民文化スポーツ局長
- 出口成信議員
- 市民文化スポーツ局長
- 出口成信議員
- 副市長
- 出口成信議員
- 副市長
- 出口成信議員
- 市民文化スポーツ局長
- 出口成信議員

◎出口成信議員の一般質問

皆さんこんにちは、日本共産党の出口しげのぶです。会派を代表しまして一般質問を行います。

ます。

旦過市場火災について伺います。北九州市の台所、戦後復興のシンボルとも言える、旦過市場が、今年 4 月 19 日・8 月 10 日の二度にわたって大規模火災に見舞われました。改めて、被災された方々にお見舞い申し上げます。

8 月の火災では、4 月を上回る 45 店舗、3,324 m²を焼失しました。なぜこのような大規模火災に二度も襲われたのか、検証が必要です。さらに被災された店舗の多くが、旦過地区再整備事業の対象になっており、建物が焼失したために、再整備の移転補償が受けられず事業者は営業再開の目途すら立たない状況です。二点質問します。

◆第 1 に、なぜ前回の火災からわずか 4 か月で、再び大規模な火災が発生したのでしょうか。我が党はこれまで、本市に対して市場商店街の防火対策の徹底を申し入れてきました。市長は 8 月の火災後「消防の指導の在り方を根本に立ち返って見直す」として、9 月補正で市内の木造飲食店等およそ 650 店舗に、防火指導員 14 名が二人一組となり防火指導を行う「緊急火災予防対策事業」を提案していますが、重要なことは火災予防対策をどう徹底していくかです。今ある「北九州市商店街の活性化に関する条例」の中に、市場商店街の防火対策に関する規定を明確に盛り込んで、それに対応する市の支援を強化すべきです。市長の見解を伺います。…

①

◆第 2 に、ある飲食店は旦過地区再整備事業の最初の整備地区に入っており、6 月下旬には移転補償の査定の概算額も提示され 10 月には移転補償契約を締結する予定で、用地課も空き店舗情報など協力して移転を進めていました。ところが突然の火災に見舞われ状況は一変。用地課の個別説明の窓口を訪れた飲食店主に担当者は「法律上は建物があつての移転補償、補償金をお支払いする根拠がなくなった」と、告げました。商店主は突然谷底に突き落とされ、途方にくれました。

そこで伺います。予定通りに再整備を進めるためにも、被災者の早期の営業再開のためにも、市場商店街火災に対して、がれきの処理の公費負担や店舗焼失事業者への営業再開の支援ができる仕組みを創設すべきです。答弁を求めます。…②

次に、八幡市民会館のホールとしての再開を求めて質問します。

旧八幡市民会館は、戦後復興事業と八幡市制 40 周年を記念して 1958 年に、本市にゆかりのある著名な建築家、村野藤吾氏の設計で建築されました。施設の老朽化が進んだ市民会館を運営するには、多額の改修費用がかかることから、公共施設マネジメントの総量抑制の考えなどを踏まえ 2016 年 3 月で市民会館としての機能を廃止し、その後、2018 年 8 月に旧八幡市

民会館を、埋蔵文化財センター及び収蔵庫として活用する方針を発表し、2022 年度予算に実施設計費 1 億 1300 万円が計上されました。

私は北橋市長の芸術文化政策を否定するものではありません。私は 8 月、バイオリニストの篠崎史紀氏から八幡市民会館について本市出身の音楽家としてのお話を伺いました。大変興味深いお話で、それを踏まえて市長の見解を伺います。

本市の「北九州国際音楽祭」の取り組みは素晴らしいものです。若手の音楽家を育て、すでに多くがプロフェッショナルとなり巣立ち世界中の団体に所属しています。

そして、皆同様に北九州市は自分たちのスタート地点だ、第二の故郷みたいな場所だと、北九州市に来るのをすごく喜んでいるそうです。ですから、「文化というのはそうやって『ハートの中に残るもの』であって、『記録』じゃなく『記憶』だ。それを古くなったとか、赤字だからと言って、ホールとしての用途を廃止し、外見的には触れるものであってもハートには触れないものになってしまうのは、一番大きな、寂しい現実なのかもしれません。」とおっしゃいました。

さらに、篠崎氏は「日本ではモノを作って壊して、作って壊してっていう、その繰り返し。一方、ヨーロッパでは、人が集まる場所が人を育てるという考え方で、そういうものを残していくのが実は、自分たちの DNA を残していくのとまったく同じことだと言う価値観。古くから、老朽化しているからダメなのではなく、コンサートホールなども 200 年近く同じものをずっと修復しながら、大事に街のシンボルとして残しており、そこには歴史が詰まっている。例えば八幡市民会館なら、そこに来た有名な演奏家だったり、そこで育っていった人だったり、必ずいるはずだ」と言います。そこで伺います。市民が文化に愛着を持ち、さらに発展させていくためには、育んできた歴史を残していくことが大事であると考えますが、八幡市民会館で演奏した方々の資料は残していますか。…①

篠崎さんは、ご自分にとって北九州市は、自分を形成する全てだとおっしゃいました。さらに、「北九州市は五市が合併しているから、いろんな個性の強い人たちがいっぱいいる、その中で個性を大事に育てられる都市というのはそんなにはない。だからこれだけホールもあって、すごく演奏会が盛んだし、音楽もすごく育っている。これは音楽家がいっぱいたったという証拠です。だからそういった土壌をもっと大事にすればいいだけの話だと。他都市でやっている国際音楽祭は、ほとんどが外からものを持ってくるだけだけれど、北九州は『手作りコンサート』がほとんどで、地元の演奏家がいろいろなものを担当しながら、演奏会のプログラミングをしている。それ一つ考えてみても北九州市はすごくいろんなものを残しているのに、それを育てていったホールをなんで消しちゃうんだろう。」とおっしゃいます。私もその通りだと思います。

北九州市を人の集まる魅力的なまちにするためには、目に見える採算性だけでなく、人を育てるということを大事にすべきです。私たちが訴えているのは、人を育て、心を育て、そのみんなが育った、より所になる場所を残しましょうと言う話です。

そこで市長に伺います。八幡市民会館がホールとして「人を育て、心のよりどころとなってきた」との篠崎氏の見解をどう受け止めますか。…③

■北橋市長

〔旦過市場火災について〕

私からは旦過市場の火災についてお答えします。4月19日の火災からようやく復興の歩みを始めたばかりの旦過地区は、再びこのような火災に見舞われた事に大変心痛めております。

被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。私自身、同じ地区で2度の大規模火災が発生したことを重く受け止め、改めて老朽化した木造建築物の密集地域における防火対策強化の必要性を痛感しております。

本市では4月の火災直後から市内63カ所全ての市場、商店街の店舗一軒一軒を消防職員が訪ね、チラシを用いた火災予防啓発や消火器の設置状況の確認を行っています。また木造建築物が密集する地域の飲食店105店舗に、特別査察を実施し、消火器の設置義務があるにも関わらず、設置していない店舗15店に指導を行っています。

加えて6月議会でご承認いただいた119番自動火災通報システムの拡充につきましては、まだ設置されていない木造市場などへの設置を今年10月中に終える予定で作業を進めております。

そのような取り組みを進める中で、二度目の火災が発生したため、さらなる対策が必要と考え、緊急火災予防対策事業として、防火指導員を新たに14名配置し、木造飲食店など約650店舗を対象に、火災予防啓発、消火器の取り扱い指導、消火訓練など、きめ細かな防火指導を実施することにしています。

また、今後の防火対策のあり方について有識者の意見を伺う検討会をスタートさせます。

こうしたことを盛り込んだ補正予算を、この議会に提出したところであります。議員ご指摘の商店街の活性化に関する条例は、商店街の活性化を図ることを基本目標とした条例と認識しております。

その中に市場商店街の防火対策に関する規定を盛り込むことについては、まずは現状の防火対策の効果や課題を評価した上で、今後更に必要な防火対策とは何か。条例で規制すべき事項はあるか。新たな義務を課す場合、市民・事業者の理解が得られるかなど、検討すべき課題が多岐にわたります。

このため他都市の取り組みも含めて、幅広く調査研究することが必要であります。そこでまずは今議会の補正予算の有識者の検討会において、ご意見を伺うことを考えております。今後

このような大規模な火災が起きないようにさらなる防火対策にしっかりと取り組んでまいります。

残余の質問は関係局長からお答えいたします。

■産業経済局長

私からは、旦過市場火災についてのうち、がれき処理の公費負担や、店舗失業者への営業再開の支援についてのご質問にお答えいたします。

被災事業者の営業再開の支援につきましては、これまでも商店街の火災の際に既存の商店街空き店舗活用事業の活用を呼び掛けて参りました。

4月の旦過地区火災を機に、店舗の流出を防ぎ商店街の復興を支援するため、本制度に特例措置を設けております。8月の火災についてもこの制度を適用し、事業再開の支援を行っているところであります。

事業者からの相談に対しては、相談窓口などで希望を丁寧に聞き取り、空き店舗情報を提供するなど営業の再開に向けて寄り添った支援を行っております。

4月の火災については12店舗から相談を受けており、すでに9件の補助金交付が決定しております。8月の火災につきましてもすでに4店舗から相談受け、一件の補助金交付が決定しております。

また再整備事業を進めるにあたっては、関係者から焼損跡地に仮設店舗を設置してほしいなど、具体的な要望も上がってきております。その実現には入居希望者の数や店舗の使用等、ニーズの把握や建設用地に関する土地所有者の意向など様々な課題もありますが、関係者の声を丁寧にお伺いしながら事業を加速させるため、仮設店舗の設置に向けた検討を進めてまいります。

がれき処理につきましては、市内で住宅を含め年間200件を超える火災が発生しており、市場・商店街を対象とする公費負担の仕組みづくりは公平性の観点からも課題があり、難しいと考えております。

なお本市では被災者支援の一環として被災ゴミを市の焼却工場等で受け入れ、その処理手数料を全額免除しております。いずれにしましても今後も被災事業者にしっかり寄り添いながら、事業者の営業再開に向けて出来る限りの支援に努めてまいります。私からは以上です。

■市民文化スポーツ局長

最後に私から八幡市民会館のホールとしての再開について、演奏した方々の資料が残っているか。また八幡市民会館のホールに関する篠崎氏の見解をどう受け止めるか、この2点についてまとめて答弁いたします。

旧八幡市民会館は開館以来、本市出身の音楽家、篠崎史紀さんをはじめ海外オーケストラや歌手の早見優さんなどのコンサート、また出張なんでも鑑定団など幅広い公演が開催され、市民に親しまれて参りました。

旧八幡市民会館は長きにわたり地域の文化を支えてきましたが、建物が老朽化したことや、近隣に「響ホール」や「黒崎ひびしんホール」といった機能の高い文化施設が次々と開館したことによりまして、ホールとしての役割を終えております

委員お尋ねの演奏した方々の資料、例えばパンフレット、こういったものはありませんが、市の音楽事業の関連資料などからは、これまでの公演の様子をうかがい知ることはできます。

例えばいつオーケストラがあったとか、コンサートがあったとか。またこのホールを利用したことのある市民にとっては、この建物を見ることでかけがえのない思い出は心の中に生き続けていくのではないかというふうに考えております。

北九州国際音楽祭については、かつては旧八幡市民会館を会場の一つとして使用していましたが、現在は国内有数の音響設備を有する「響ホール」がその役割を継承しております。

篠崎さんをはじめ国内外の演奏家が「響ホール」のことを高く評価し、国際音楽祭を含め多くの公演を重ねてきたことで、チックコリアなどの世界的なアーティストが訪れるようになり、その結果、市民がより質の高い音楽に触れる機会が増えたことにつながっております。

「響ホール」は本市出身のアーティストや新進気鋭の若手が公演を行い、音楽界からは若手アーティストの登竜門という声も頂いております。

本市ゆかりの若手アーティストは、このような豊かな環境の中で経験を重ね、バイオリニストの南紫音さんをはじめ、谷明人さんや超鉄矢さんなどのソリストたちが成長し、世界へと羽ばたいております。

また、「響ホール」は未来を担う若い世代に音楽を継承していくため、若手演奏家による小学校等へのアウトリーチ事業。一流の演奏家による楽器の公演、公開指導、大学と連携した教育プロジェクトなどをおこなっております。

参加した方々からは、私も将来、音楽の道に進みたいので一生懸命練習したい。プロの音楽家の生の演奏を聞けて感動した。また、プロの音楽家と一緒に演奏したい、といった感想を多くいただいております。

こうした取り組みは、本市の音楽文化を支えるとともに、次の音楽文化を支える新たな人材を育むことにつながっておると考えております。

さらに本市には「響ホール」以外にも九州最大級のパイプオルガンを有する北九州ソレイユホールをはじめ、北九州芸術劇場や戸畑市民会館など多くのホールがあり、それぞれの施設の個性を活かしながら音楽文化の継承に力を注いでおります

旧八幡市民会館はホールとしての役割は終えたものの、議員指摘の通り、旧八幡市民会館で育われました、人を育て心の拠り所となって市民に感動を与えてきた歴史は大切な記憶として、建物が変わっても人から人へ脈々と受け継がれております。

このような地元のアーティストや市民との音楽のつながりを未来に継続していけるよう引き続き取り組んで参りたいと考えております。答弁は以上です。

●出口議員

[八幡市民会館について]

まず八幡市民会館から伺いたいと思います。まずですね、市民会館などでのイベント。これから、今日からでも残していくべきではないですか。

■市民文化スポーツ局長

記録につきましては、あのプログラムこういったものについては、主催団体の方が必要に応じて保存されているという風に認識しております。ただ、議員、おっしゃりますように、施設でどういうものが行なわれているとか、それから、大きなものはイベントがあれば、その時の写真であるとか、そういったものはしっかり残していく必要があると思いますので、その状況、状況に応じて検討していきたいというふうに思っております。以上でございます。

●出口議員

北九州市芸術文化施設条例。この第1条に目的として、優れた芸術文化を市民が享受する機会の拡大と、新たな芸術文化の創造及び市民文化の向上に資するため設置とあります。こんな素晴らしいことをうたっているながら実施したすべての内容、精査の記録などを残さないというのはおかしくないですか。きちんと残していくべきではありませんか

■市民文化スポーツ局長

当然、おっしゃりますように、記録というものは保存するというのには必要があると思います。ただ、すべてを保存するというふうになりますと、その量であるとか、いろいろなものもたくさん増えてきますので、その必要に応じて記録を残していくというふうに考えたいと思っております。以上でございます。

●出口議員

残し方はいろいろありますので、紙ではなくても残せます。これで篠崎さんも言っています。なぜ残さないのかと。八幡市民会館に来た有名な演奏家、海外の方々も結構来ています。本来はそういうものをきちんと残していきながら、それを文化として広げていくことが、多く

の人の愛着につながるんだと言われています。これ以上、言いませんけれども、きちんと残してください。お願い致します。

それと、北九州市の「市立ひびきホール」があるからと言われましたけれども、北九州市立のひびきホールは、クラシックを中心とした音楽専用のホールです。八幡市民会館は、何にでも使えるオールマイティなホールです。これ各区に一つオールマイティのホールが必要です。実際に各区には存在しています。しかし八幡東区にはありません。必要だと思いませんか？

■市民文化スポーツ局長

先ほどもご答弁させていただきましたが、市内にはもちろん、響ホール以外にも先ほどいましてのような、ソレイユホールですとか、芸術劇場、戸畑市民会館、それから黒崎ひびしんホール、こういったたくさんの施設がございます。

そういった中でそれぞれの大きさ、規模、それから音楽に、例えば音響なども考慮して、どういうものを誘致すればいいか。そういったものについては全市的に施設の特性に応じて、バランスに応じた事業をやっていきたいというふうに考えております。以上でございます。

●出口議員

そのクラシックを中心にした響ホールなんか、響き過ぎるんです。ひびきの長さとか、わかってると思うんですけど、それで篠崎さんも言われていたのは、そうじゃなくて八幡市民会館というのは、先ほども言われましたが「なんでも鑑定団」とかですね、早見優さんとか、クラシックも使ってる。何でも使えるんですね。こういうホールっていうのはそんなにないんです。

篠崎さんも言われていましたけど、本当に貴重なホールなんですね。規模の大きさとかもあるんでしょうけども、本当に必要なホールなので、ぜひ残して頂きたいと、この観点からもう言いたいと思います。

これちょっと提案したいんです。提案を含めて質問したいんですけれども、例えばですね、会館の使用料についても、市民だったら50%、70%引きにするとかですね。地元の交響楽団は、何曜日をタダにして使ってもらうとかですね。

土日はイベントやりますので、平日は市の認可した団体は、何時から何時まではタダにしようとか。また北九州市に多くの合唱団もありますよね、子どもから高齢者まで。こういう団体にも、この月はこの団体とかみんなに使ってもらう。とにかく終始関係なく動き始めると、人は利用するんだと。そして人が集まれば、この市民会館は私たちのホールなんだと言ってくれるかもしれませんよ。タダで貸して、解放していくんですけれども。募金箱とかそういうものを置いてね、そこに子どもたちが100円入れるかもしれない。大人だったら、1000

円入れるかもしれない。そういうものを見ていれば、自分達の居場所なんだと、そう思うんじゃないですかね。

さまざまな会館を見てきた篠崎さんの提案なんです。私、素晴らしいと思いますけれどもいかがですか。

■副市長

ひとつ、お尋ねしたいのは八幡市民会館を、今の形、今議員が提案されたような内容で復活をすべきっていうことを言われてるのか、響ホールで色々、合唱団だとか、そういう人たちが平日、使うときに安く提供することと言われてるのか。まずそこをちょっとその確認をさせていただければ。

■議長

副市長、確認ということでよろしいですね。

●出口議員

八幡市民会館だけの話じゃないんです。市民会館どこでも、そうして行ってほしいという話です。

■副市長

まず、はっきり申し上げたいのは八幡市民会館については、平成 27 年の 3 月 11 日に、この議会において廃止の条例を可決していただいています。廃止が決まっております。ただ他の市民会館についての使い方ということであれば、それは私どもこれからの検討課題とさせていただきたいと思います。以上です。

●出口議員

あのですね。いま、採算抜きにするような話を、私、しているんですけど。実はですね、私、4 月にウエル戸畑を借りて、作曲家の池辺晋一郎さんのイベントやったんです。その時に私、舞台監督をやったんですが、ホールのスタッフの対応が、とても冷たく高圧的に感じたんです。その人たちを非難するようになったらまずいので、ちょっとここでちょっと一言言っておきますけど。

私、実は現役だった頃、特に 1990 年代とか 2000 年代とかホール使ってきたんです。その時のスタッフ、技術者のみなさんは本当に素晴らしかったんですね。

ようこそ会館にいらっしゃいましたと。一緒に素晴らしいイベント作りましょうねと。何でも言ってくださいと。その人たちは本当に会館を愛して、仕事に自信と誇りを感じたんですね。

これがこの働く人も含めてこれこそ、芸術文化の発信地だと、市民会館のあり方だと思ったんですね。ところがやっぱり貸館業で採算重視になっていくと、市民だけでなくですね、そのスタッフの心さえ遠ざけているのではないかと思うんですね。どうですか。副市長でも構いませんが。

■市民文化スポーツ局長

接遇について大変申し訳ない態度って言うか、そういう職員の態度があったということであれば、この場をお借りして本当に申し訳なかったなと思います。

ただ我々としては、出口議員の思いとして、設置目的に合致するようにですね、施設がよりよく市民に使われてですね、心の拠り所になるという点については、まったく共感すると言うか、僕たちも同じ思いでこの施設を運営させていただいております。

ただ無料にするっていうところで考えますと、やはり行政として公共施設とは長く維持する、といったところで考えると、受益者負担っていうのも当然、一方で考えていかななくてはならないスタンスだと思っております。

我々としては、設置目的は、しっかり到達できるように一生懸命頑張っていきたいと思っております。

●出口議員

ここで篠崎さんの話を紹介します。

人が集まる場所、人が来るための場所というのは、結果的に安らぎの場であり、教会もそうだし、コンサートホールもそうなんだけど、最後の心の拠り所なんです、と。だから第二次大戦の時に、攻撃する時に最初に攻撃されたのが教会とコンサートホールです。この二つが標的になりやすい。なぜなら人の心を壊してしまうために、そこを攻撃するわけです。

そこが壊れれば、心が全部折れてしまうからなんです、とおっしゃいました。これね私、今回の公マネが、まさしくこれとまったく同じだと思うんですね。

心の拠り所になる、人が集まる場所となる八幡図書館を壊して、八幡市民会館の機能を破壊して、人が集まる場所をなくしていく。篠崎氏の話にある、人々の心を折るための攻撃の標的にされたのではないかと、思ってしまう。

八幡区民の心は折れそうに傷ついています。今からでも遅くありません。考え直して戦後復興のシンボル、建築学的にも音響も素晴らしい、市民の心の拠り所、人が集まる安らぎの場所、市民会館のホールとして活用・復活すべきです以上です。